

勾当台公園再整備基本計画（中間案）

令和5年2月

仙台市

目次

I.計画の背景と目的

- －1.計画の背景と目的 1
- －2.計画の作成に向けた流れ 1

II.計画条件の整理

- －1.計画の前提条件
 - 1)上位・関連計画 2
 - 2)基本構想(令和4年6月策定)の概要 3
 - 3)各種調査の分析・検討 5

III.基本計画

- －1.各広場の性格付け
 - 1)再整備の視点 6
 - 2)各広場の性格付け 7
- －2.各広場の整備計画案
 - 1)各広場の再整備の方向性 8
 - 2)各広場の整備計画案 9
- －3.公園全体に係る再整備の計画案
 - 1)公園全体の方針 15
 - 2)公園全体に共通する整備の方針 16
 - 3)既存施設・植栽の保全、活用の方針 19
 - 4)空間構成計画と動線計画 21
 - 5)施設配置計画 23
 - 6)公園管理運営に関する検討事項 25
 - 7)整備年次計画 26

参考資料

公園現況の把握分析

- 1)現況施設・植栽 27
- 2)各種調査等 38

I. 計画の背景と目的

—1. 計画の背景と目的

① 計画の背景

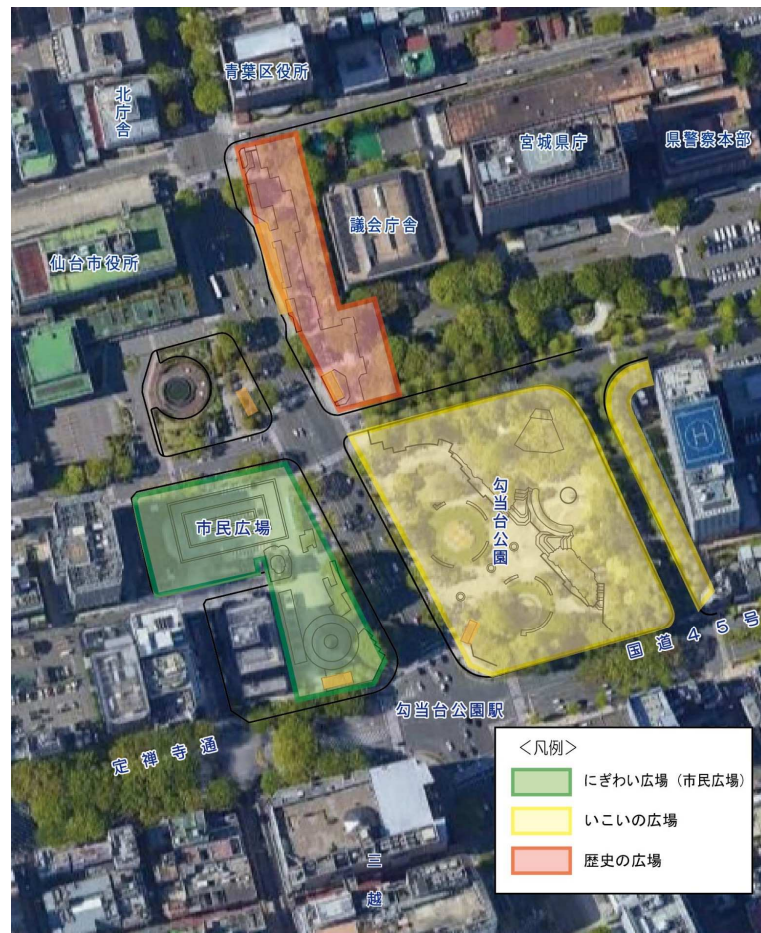
勾当台公園は、多種多様なイベントが開催されるにぎわいの場として、また豊かな緑に囲まれたいこいの場として多くの市民に親しまれているが、整備後30年以上が経過し、施設に老朽化がみられるほか、市役所本庁舎建替事業をはじめ、公園を取り巻く環境も大きく変わろうとしている。

とりわけ、市役所本庁舎と本公園一帯の勾当台地区は、仙台市基本計画(令和2年度策定)において「豊かな公共空間と市民等の多様な主体が展開する多彩な活動が日常的なにぎわいと交流を生み出す場」として位置づけられており、これを踏まえ市役所本庁舎建替基本設計や勾当台・定禅寺通エリアビジョンの策定が進められた。

こうした公園周辺地区における都市整備事業の進捗を背景として、令和4年度には勾当台公園再整備基本構想(令和4年6月)を策定し、これに引き続き基本計画の検討が進められることとなった。

② 計画の目的

本計画は、再整備の主題など再整備の方向性を明確にするために策定した勾当台公園再整備基本構想で設定したコンセプト、再整備の方向性に基づき、計画の基本方針及び再整備施設や導入施設の内容等を設定するとともに、景観・環境保全・管理運営等の検討に基づいて、空間形成及び動線を定めるなど、勾当台・定禅寺通エリアで進められている他事業との連携を図りながら、エリアの拠点となり周辺道路や施設等と一体的な利活用空間を創出する公園とするため再整備基本計画を策定するものである。



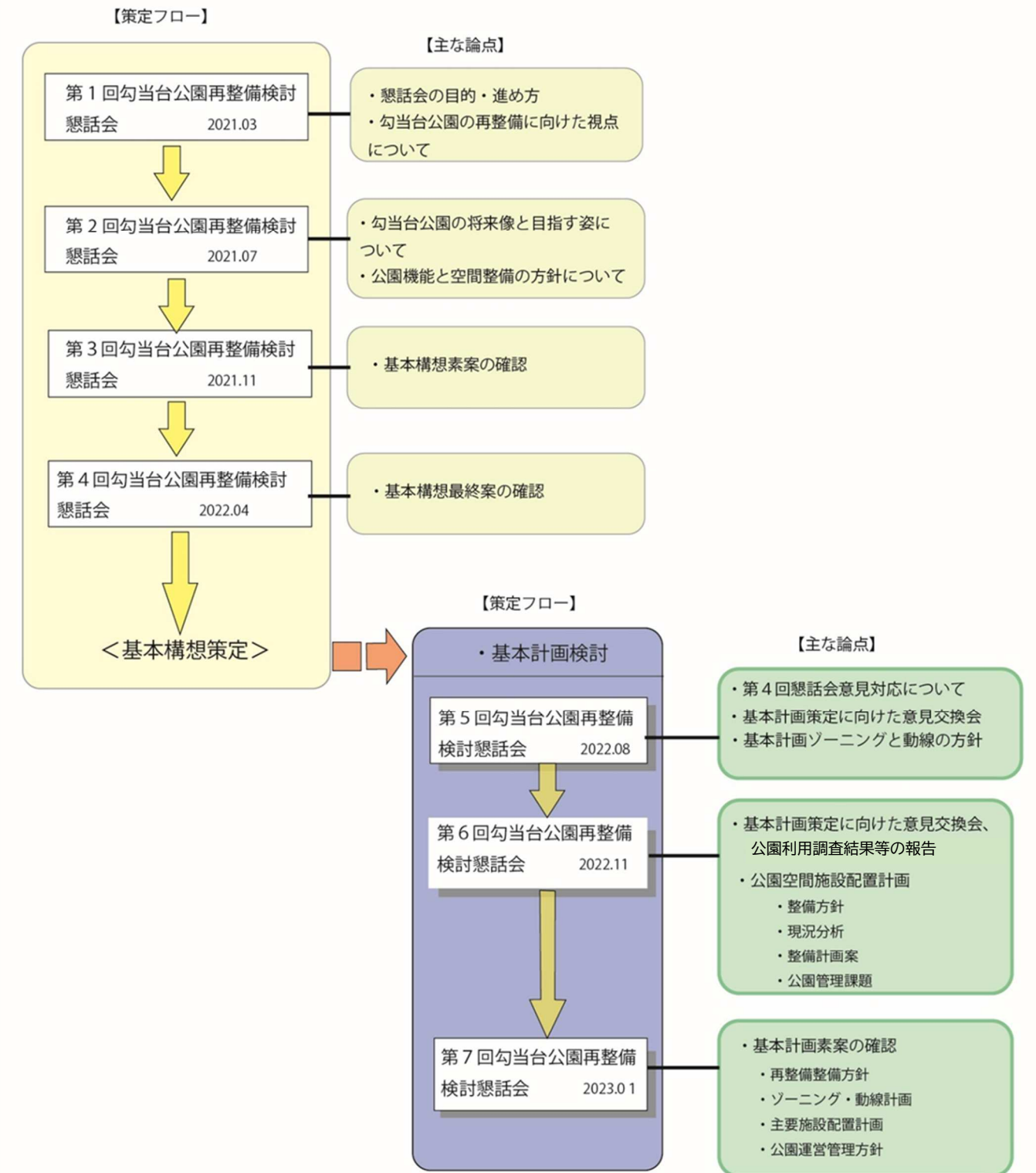
名称	勾当台公園
所在地	仙台市青葉区本町三丁目9-2外
公園別	近隣公園
規模	26,887 m ²
設置	昭和31年度
改修	平成元年度

■ エリア別面積
【にぎわい広場(市民広場)】 約 8,000m ²
【いこいの広場】 約 15,000m ²
【歴史の広場】 約 4,500m ²

—2. 計画の作成に向けた流れ

【勾当台公園検討懇話会設置の目的】

仙台市中心部における都市環境の変化や利用用途の拡大により、公園におけるニーズの変化が生じ、公園全体の機能刷新が求められている。今回、市内中心部の更なるにぎわいづくりや公園の価値向上のために、勾当台公園再整備の計画思想、計画の方向性、設計の主題等必要事項の整理・検討を行うことを目的に設置したものの。



II. 計画条件の整理

—1. 計画の前提条件

1) 上位・関連計画

勾当台公園を取り巻く上位・関連計画、関連事業を整理すると以下のとおりである。

勾当台公園に関する事項

<p>仙台市基本計画（令和3年3月策定） 【理念】挑戦を続ける、新たな杜の都へ ～“The Greenest City” SENDAI～ 【目指す都市の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●杜の恵みと共に暮らすまちへ ●多様性が社会を動かす共生のまちへ ●学びと実践の機会があふれるまちへ ●防災環境都市プロジェクト ●創造性と可能性が開くまちへ 	<p>➢チャレンジプロジェクト（実施の方向性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①杜と水の都プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 01「杜の都」の象徴となる都市空間をつくる 02みどりを楽しめる生活空間をつくる 03都市インフラの持続可能性を高める ②防災環境都市プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 03都市インフラの持続可能性を高める ⑦TOHOKU 未来プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 03 仙台・東北に世界中から人を呼び込む ⑧都心創生プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 01 投資を呼び込むまちをつくる 03 まちの回遊性を向上する
<p>仙台しみどりの基本計画（令和3年6月策定） 【基本理念】百年の杜づくりで実現する新たな杜の都 みどりを育むひと、みどりが育むまち 【基本方針】みどりで選ばれるまち（活力・経済など） みんながみどりを享受できるまちをつくる</p>	<p>➢都心部の活力・にぎわいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ●街路樹のある公共空間の活用によりにぎわいを創出 ●公園を活用したエリアマネジメントの推進 <p>➢グリーンインフラの推進（みどりの計画的配置、雨水の浸透貯留機能の向上等）</p>
<p>勾当台・定禅寺通エリアビジョン（令和3年5月策定） 【まちづくりの理念】“交流”と“ゆとり”を楽しむところ ～みんなで育む仙台の庭～</p> <ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりに寄与する公共施設・公共空間をつくる ●公・民の空間をつなぎ、人や活動をつなぐ ●多くの人々や民間投資を呼び込む 	<p>➢市民広場等を重点ゾーンに位置付け【主な取り組みの方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多くの人々が気軽に立ち寄り、多彩な活動に触れ、質的な暮らしの豊かさを実感できる機能と、開放感あるデザインの導入 ●市役所本庁舎や市民広場、定禅寺通等が連続したシームレスな利活用空間の創出 ●エリアマネジメントや民間活力の導入等による、定禅寺通等と連動した公・民の空間利活用、文化芸術・市民活動や大小のイベント開催の日常化
<p>仙台市役所本庁舎建替基本計画（令和2年7月策定） 【新本庁舎の目指す方向性】市民とともに、まちとともに新たな時代に向けてチャレンジする</p> <ul style="list-style-type: none"> ●行政庁舎として持続性と柔軟性を備え、協創・共創の場で市政課題を解く ●市民が集う多彩な協働の杜をつくる ●杜の都、防災環境都市を発信する 	<p>➢市民広場と新本庁舎低層部、定禅寺通等との空間的な一体性の確保</p> <p>➢敷地内広場と新本庁舎低層部、市民広場との一体的な利活用空間の形成</p> <p>➢市民広場とともに市民活動の活性化を目指し、情報発信機能の強化</p> <p>➢市民広場との連続性の向上により災害対応機能の強化</p> <p>➢東二番丁通沿いの植栽による緑の回廊の連続性</p>
<p>定禅寺通活性化（平成29年度から始動） 定禅寺通エリアが持つポテンシャルを活かし、訪れ、滞在したくなる環境づくりを進め、都心全体の回遊性の向上・活性化を図る</p>	<p>➢定禅寺通緑地を結ぶオープンスペースとして、一体的な取り組みの場</p>
<p>せんだい都心再構築プロジェクト ～働く場所、楽しむ場所として選ばれる、杜の都の個性きらめく、躍動の都心（まち）～（令和元年7月策定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●イノベーションが生まれる都心（まち） ●交流拠点となる新たな賑わいを創り出す都心（まち） ●杜の都の個性が活きる都心（まち） 	<p>➢施策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市役所本庁舎の建替えや勾当台公園市民広場のあり方、音楽ホール整備の検討など、都心における本市の重要プロジェクトを推進 ●個性と魅力ある公園や街路樹の整備などにより緑の質を高め、憩いと安らぎを生む、杜の都にふさわしい緑のネットワークを充実させるとともに、豊かな都市空間の利活用を推進 <p>➢都心の将来イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●勾当台・定禅寺通エリア ～文化交流・市民活動の場～ 多彩な市民活動と定禅寺通りや市民広場、一番町等の豊かな公共空間が一体となった日常的な賑わいと交流を創出するエリア

※その他関連計画
 都市計画マスタープラン、仙台都市交通プラン、杜の都環境プラン（仙台市環境基本計画）

2) 基本構想(令和4年6月策定)の概要

①基本理念と基本的な方向性

再整備に向けて配慮すべき事項

- 勾当台公園の特性**
 - ・3つの広場の機能連携と立地特性に応じた利活用
 - ・公園整備の歴史・文化の保存と継承
 - ・市民が集うイベント広場としての利活用の維持・発展
 - ・徒歩で回遊できるアクセス性、交通結節点としての機能の活用
- 公園施設の機能充実・更新**
 - ・まとまりのある広場空間の確保と適切な通行空間の連携配置
 - ・樹木の生育環境の改善、老朽施設の修繕・リニューアル
 - ・歩行空間の快適性・安全性・バリアフリーの確保
 - ・グリーンインフラとしての機能形成
- 公園運営**
 - ・情報発信機能の向上
 - ・官民連携(PPP)等の導入
 - ・多様な主体が協働するパークマネジメントの導入
 - ・周辺施設との一体的なマネジメントに関する検討
 - ・ブランディング

利用シーン

- 市民・ファミリー
●仙台を訪れる人々
(街歩き・観光・買い物)
- 仙台市の都心部で働く人
- 多様な活動主体と参加する市民
- その他災害時における一時避難及びその対策に従事する人

街歩き・ウェルネス・観光で立寄るゆとりの空間

働く人が行き交う都心のオープンスペース

多彩なイベントの場・にぎわいの場

災害対策の拠点

基本理念 (コンセプト)

“Common Garden”

～「ひと」と「まち」をつなぐゆとりとにぎわいの拠点～

“Common Space” × “Garden”

豊かなみどりと人の活動・にぎわいとが調和した「杜の都 仙台」の暮らしの豊かさを実感できる、また新しいこと(市民活動等)へのチャレンジや、思い思いの利用ができる「みんなが使い・育てる私たちが誇りに思う庭」として、仙台のシンボルとなる公園を目指します。

- 公園で展開される豊かさやにぎわいが、勾当台・定禅寺通エリアへと人を呼び込む、エリアの吸引力の核となります
- そして、公園からの人流が生まれ、都心部のみどりの回廊を通じて周辺の定禅寺通や一番町といった都心へと環流していきます
- 都心部のみどり豊かで貴重なオープンスペースがみんなの心にゆとりを生み出します。
- 公園内の「みんな」の活動が、まちの魅力や当該エリアの価値を向上させていきます

基本的な方向性

1. 仙台ブランドの発信拠点【世界とつながる】

仙台・青葉まつり、仙台七夕まつり、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、SENDAI 光のページェントなどの仙台の魅力発信する大規模なイベントのメイン会場としての使用やブランド力を持つ公園デザイン等を通じて The Greenest City SENDAI の発信拠点とします。



2. 多彩な市民活動による交流と創造の場【人がつながる】

新本庁舎低層部や勾当台通・定禅寺通、西公園・錦町公園の広場と連携・分担しながら、市民活動のチャレンジの場となるとともに、市民団体や市民同士の交流が深まり、まちづくりを創造する場とします。



3. 都心のサードプレイス【心がつながる】

コミュニティライフを実現するオープンスペースとして、昼間だけでなく、夜間は照明など光の演出により、誰もが気軽に、安心して訪れる居心地の良い都心のオアシス空間をつくり、市民生活にこいやりゆとりを提供します。



4. みどりの回遊拠点【街がつながる】

仙台のグリーンインフラである「都心部のみどりの回廊」の拠点として、にぎわい・レクリエーション・緑陰の提供等の多様な緑の機能を活用しながら、まちの回遊性を高め、にぎわいと交流の拠点とします。



5. エリアマネジメントの展開【時がつながる】

新本庁舎低層部や定禅寺通活性化の取組みと連携し、勾当台・定禅寺通地区におけるエリアマネジメントの展開等により、地区のブランディングを強化し、良好な環境や地域の価値を向上させ、未来へと継承します。



2)基本構想(令和4年6月策定)の概要

②基本構想図

目指すべき姿を実現するための再整備の方向性を整理した。

1. 仙台ブランドの発信拠点

- ◇新本庁舎低層部等と連携した大規模イベント空間の形成
- ◇杜の都のブランドに寄与する統一されたデザインの導入
- ◇杜の都らしさの豊かな緑(保存樹林、河岸段丘)と文化の継承

2. 多彩な市民活動による交流と創造の場

- ◇新本庁舎低層部や周辺公園広場との連携と分担
- ◇多様な市民活動を展開できる広場の再配置・機能拡充
- ◇広場と周辺民間ビルとが調和した空間の形成

3. 都心のサードプレイス

- ◇親しみやすく開放感のあるデザインの導入
- ◇くつろぎや賑わいを創出する都心部の芝生広場形成
- ◇憩いの空間を創出する植栽・照明デザインの導入

4. みどりの回遊拠点

- ◇回遊性を高めるエントランス機能の確保
- ◇歩道と連続したみどりの空間の形成
- ◇滞留性を高める施設の導入

5. エリアマネジメントの展開

- ◇周辺施設と連携したエリアマネジメントの検討
- ◇P-PFIを活用した民間企業との連携
- ◇公園活動団体設立の検討

公園全体に共通する再整備の方向性

(1)グリーンインフラのモデル公園
都心部での暑熱緩和や雨水浸透機能、生物多様性の保全等に寄与するモデル公園とする

(2)ユニバーサルデザインの導入
年齢や国籍、障害の有無などにかかわらず、すべての人が集い、いこい、楽しむ公園とする。

(3)都心の防災機能強化
都心部での避難場所や新本庁舎と連携した被災者支援の場とする。

勾当台公園再整備基本構想図



【凡例】

- : 都心部のみどりの回廊 (候補路線含む)
- : 勾当台通・定禅寺通の都心部の緑の回廊による人流・景観軸
- : 広場とまちの軸
一番町四丁目商店街・つなぎ横丁から新本庁舎へつながる空間軸
- : 段丘のみどり軸
都心に残された河岸段丘の崖面による景観軸
- : にぎわいゾーン:
(新本庁舎・表小路・にぎわい広場~いこいの広場下段部)
- : いこいのゾーン:
(新本庁舎・歴史の広場・宮城県庁~いこいの広場上段部)
- : 勾当台公園区域

3)各種調査の分析・検討

①意見交換会

1. 目的

勾当台公園再整備基本構想における勾当台公園の利活用方法を踏まえ、イベント主催者や観光業界、市民団体(NPO 法人)等からの意見を聴取することにより、施設配置等を検討するうえでの基本資料とする。

2. 意見内容からの検討事項の整理

意見内容

- ・イベントでの利活用:今以上のにぎわいを求めるなら、市民広場だけでは受け入れられない
- ・必要な設備や設え:野外音楽堂やトイレ等の施設の老朽化が激しい
- ・魅力的な公園を生み出すためのブランディング:周りが自然に囲われているといった特徴づけをアピール
- ・公園の役割(公園デザイン):みどりを楽しみながらゆっくり憩える公園、居心地の良い公園への整備を望む
- ・公園の歴史(地歴)や文化の保存と継承:公園の歴史・文化の視覚化・文字化による発信が必要
- ・エリアマネジメントによる公園での官民連携:民間に運営を任せ柔軟な制度を導入

②イベント時における事業 PR

1. 目的

新本庁舎敷地内広場と勾当台公園市民広場等との一体的利活用の実現に向けた課題検証。

2. 意見の内容からの検討事項の整理

意見内容

- ・施設:ベンチの拡充、水辺空間の安全な利用、野外音楽ステージやトイレの改修
- ・自然:自然との共生、園内の樹木の保存
- ・利用:小さい子供と休んだり、ちょっとした食事ができる公園にしてほしい
- ・バリアフリー:ベビーカー、車椅子がスムーズに進めるような整備

③インターネット市民アンケート

1. 目的

幅広い市民からの利用状況や要望の意向を把握し、再整備に必要な基礎資料を収集する。

2. 分析(推測)・検討結果

アンケート回答からの推測

- ・現在の勾当台公園はイベントや行事以外の目的では利用者が少なく、通勤通学に園路を散策して通り抜ける程度にしか利用されていないと推測される。
- ・市民の参画意識については、利用頻度に限らず公園施設や維持費の寄附、公園活性化のイベント企画や公園運営の参加、花壇づくりについても 2 割から 3 割程度の回答があることから、この公園で活動したい、携わりたいとの考えていると推測される。
- ・誘致してほしい施設については、カフェやテイクアウト専門店といった飲食店舗と答えた方が多く、公園内のカフェでくつろいだり、テイクアウトをして公園内の好きな場所で飲食するようなシーンが想定される。
- ・充実してほしい施設については、ベンチや屋根のある休憩スペースやトイレといった回答が多い傾向にあり、公園に長時間居られるために必要な施設を望んでいると推測される。

④市民ワークショップ

1. 目的

公園の散策を通して勾当台公園の魅力や課題について意見交換を行い、今後の勾当台公園の利活用や施設配置、管理運営の計画づくりに活かす。

2. 意見の内容からの検討事項の整理

意見内容

- ・ゴスペルを聞きながら、来園者が楽しんでた。歌うことが好きな人がいて、通りすがりの人が立ち止まって踊ったりするシーンが素敵
- ・ベンチの向きは、日当たりや景観を意識して設置するべき
- ・公園内での催しを看板等で発信し、もっとわかるようになれば良い

検討事項

- ・イベントでの利活用:新本庁舎敷地内広場と連携した大規模イベント空間の形成
- ・必要な設備や設え:老朽化した施設の新築や改修の検討
- ・魅力的な公園を生み出すためのブランディング:既存のみどり資源活用検討
- ・公園の役割(公園デザイン):都心部の貴重な緑を活かした空間形成の検討
- ・公園の歴史(地歴)や文化の保存と継承:既存の文化・歴史資源の発信方法の検討
- ・エリアマネジメントによる公園での官民連携:民間事業者の導入の検討

検討事項

- ・施設:既存施設の有効活用、老朽化した施設の新築や改修の検討
- ・自然:園内の既存樹木の保全、保存、維持の検討
- ・利用:飲食店舗(カフェ等)の導入の検討
- ・バリアフリー:周辺道路と連携した園内のバリアフリー化の検討

分析(推測)からの検討結果

既に行事やイベントが多数行われている公園であるが、今後も新本庁舎敷地内広場等と連携し、一体的利活用を想定した行事やイベントといったにぎわい創出の場として、一方で公園内でのカフェやテイクアウト専門店といった飲食店舗で購入した商品を園内の充実したベンチや好きな場所で楽しむといった長時間滞在し、いこいやくつろぎの場としての再整備の検討が必要である。

検討事項

- ・様々なイベントに柔軟に対応できる広場の検討
- ・多様な利用者のことを考えた施設配置の検討
- ・広報・魅力発信も含めたイベント等運営管理の検討



《事業 PR での市民意見》



《参加者が公園散策時に撮影した写真》

※詳細は参考資料の P39 から P43

Ⅲ. 基本計画

—1. 各広場の性格付け

基本計画の検討に必要な、新本庁舎敷地内広場をはじめとする勾当台・定禅寺通エリアとのつながりを踏まえ、再整備の視点や各広場の性格を定める。

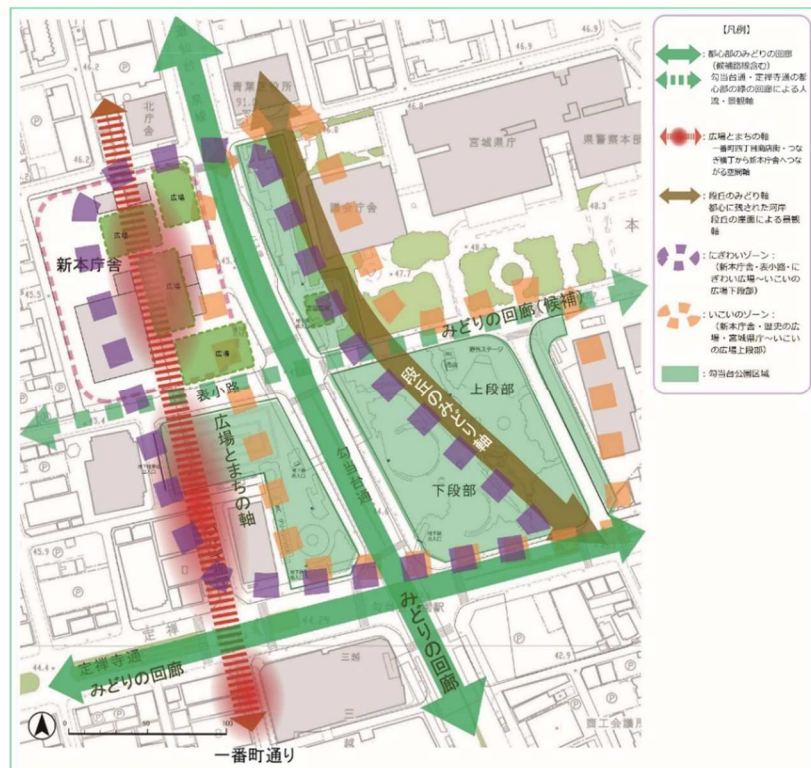
1) 再整備の視点

基本構想を踏まえ、アンケートや懇話会での意見等について検討した結果、以下の通り、3つの広場の再整備の視点として設定した。なお、基本的な方向性5. エリアマネジメントの展開【時がつながる】についてはソフト施策に関する方向性であることから再整備計画テーマからは除いた。

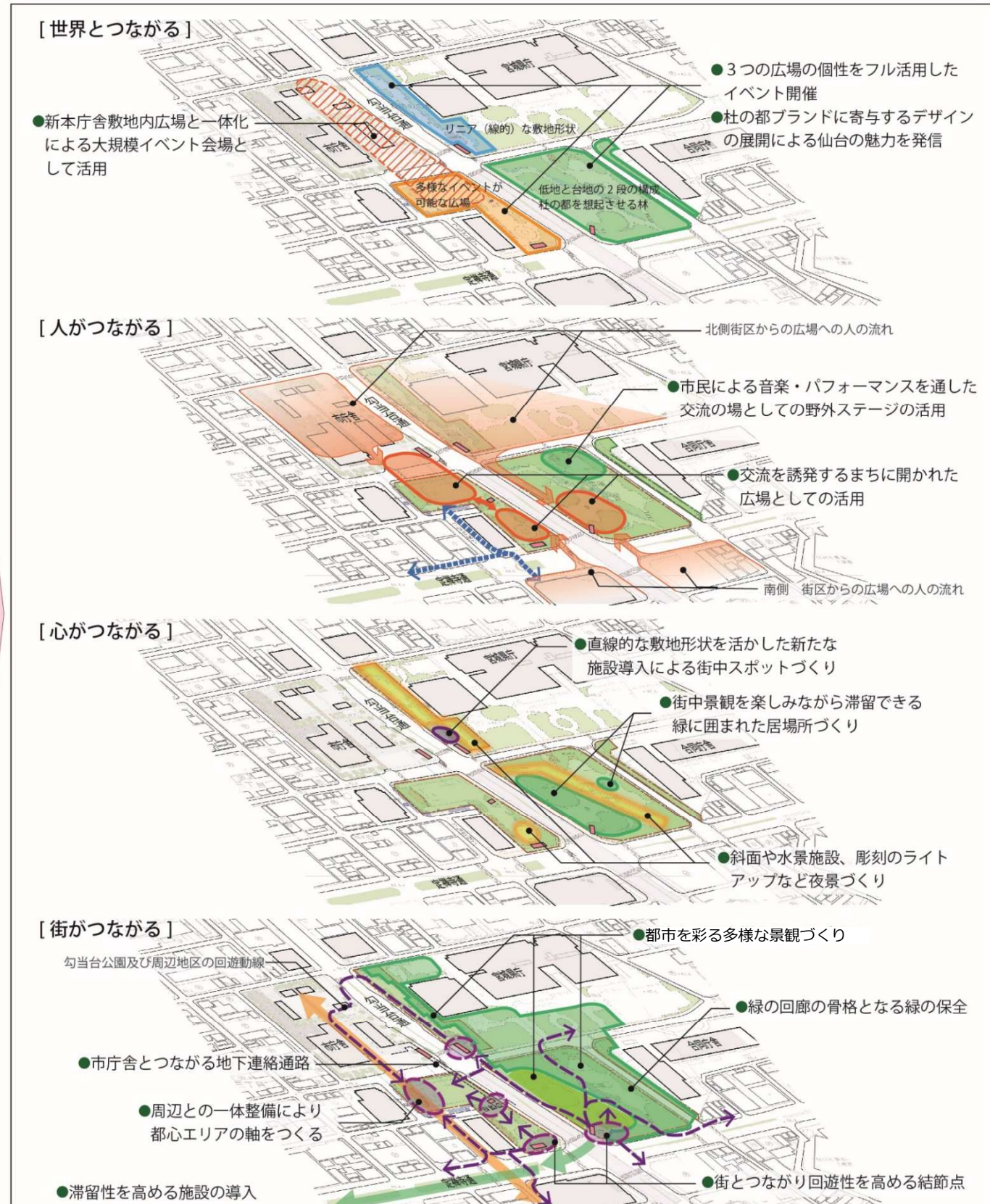
基本的な方向性(基本構想)

<p>1. 仙台ブランドの発信拠点 【世界とつながる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇新本庁舎低層部等と連携した大規模イベント空間の形成 ◇杜の都のブランドに寄与する統一されたデザインの導入 ◇杜の都らしさの豊かな緑（保存樹林、河岸段丘）と文化の継承
<p>2. 多彩な市民活動による交流と創造の場 【人がつながる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇新本庁舎低層部や周辺公園広場との連携と分担 ◇多様な市民活動を展開できる広場の再配置・機能拡充 ◇広場と周辺民間ビルとが調和した空間の形成
<p>3. 都心のサードプレイス 【心がつながる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇親しみやすく開放感のあるデザインの導入 ◇くつろぎやにぎわいを創出する都心部の芝生広場形成 ◇憩いの空間を創出する植栽・照明デザインの導入
<p>4. みどりの回遊拠点 【街がつながる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇回遊性を高めるエントランス機能の確保 ◇歩道と連続したみどりの空間の形成 ◇滞留性を高める施設の導入
<p>5. エリアマネジメントの展開 【時がつながる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇周辺施設と連携したエリアマネジメントの検討 ◇P-PFIを活用した民間企業との連携 ◇公園活動団体設立の検討

再整備基本構想図



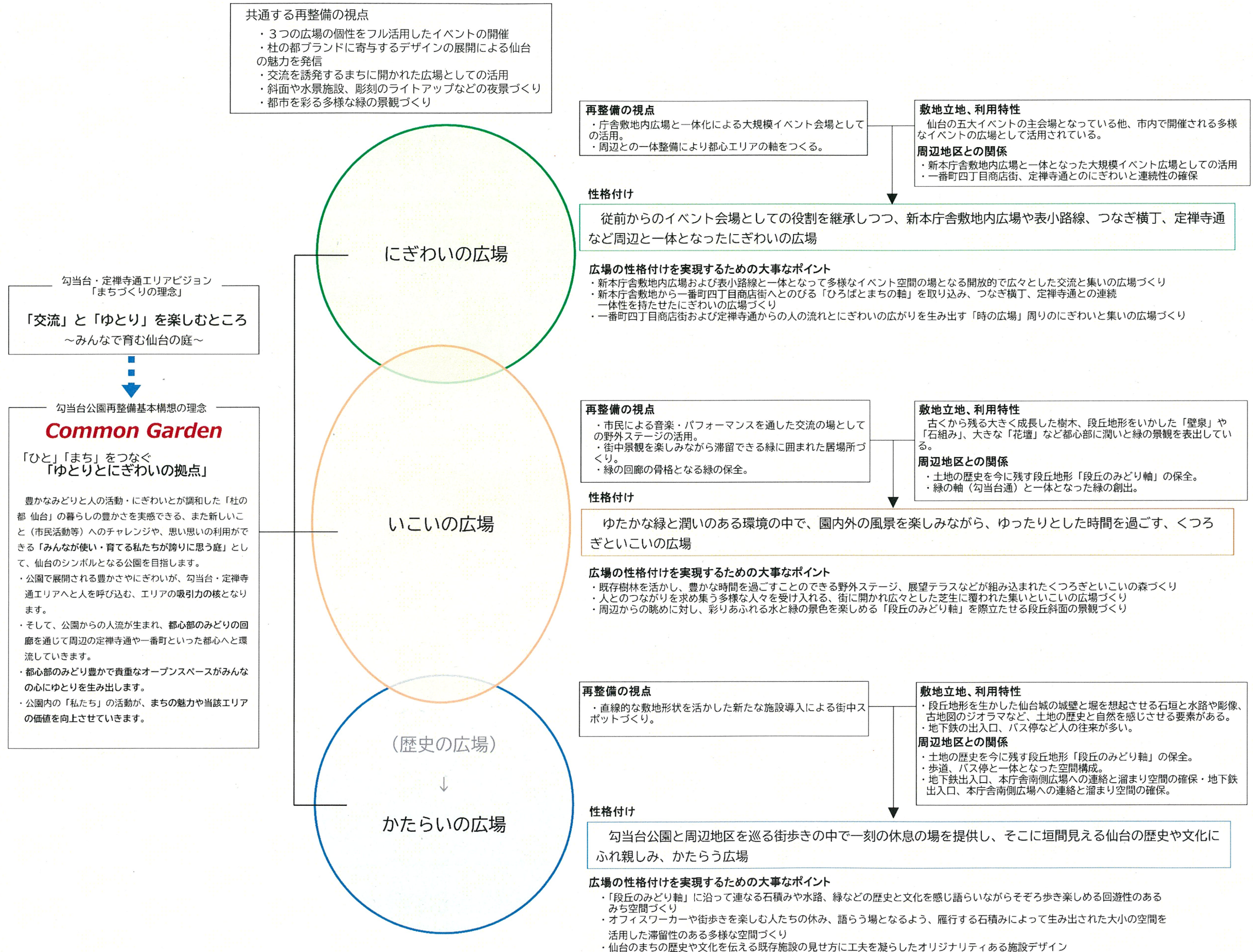
再整備の視点



※各項に記載の市庁舎図面は、基本設計（R4.3）時点のものであり、今後変更となる可能性があります。

2) 各広場の性格付け

再整備の視点を各広場の整備計画に展開していくため、敷地立地と利用特性および周辺地区との関係を踏まえて「広場の性格付け」を明らかにし、それを空間化していく上でのポイントについて「性格付けを実現するための大事なポイント」として整理し、広場同士の連携も考慮して再整備の方向性に反映させる。

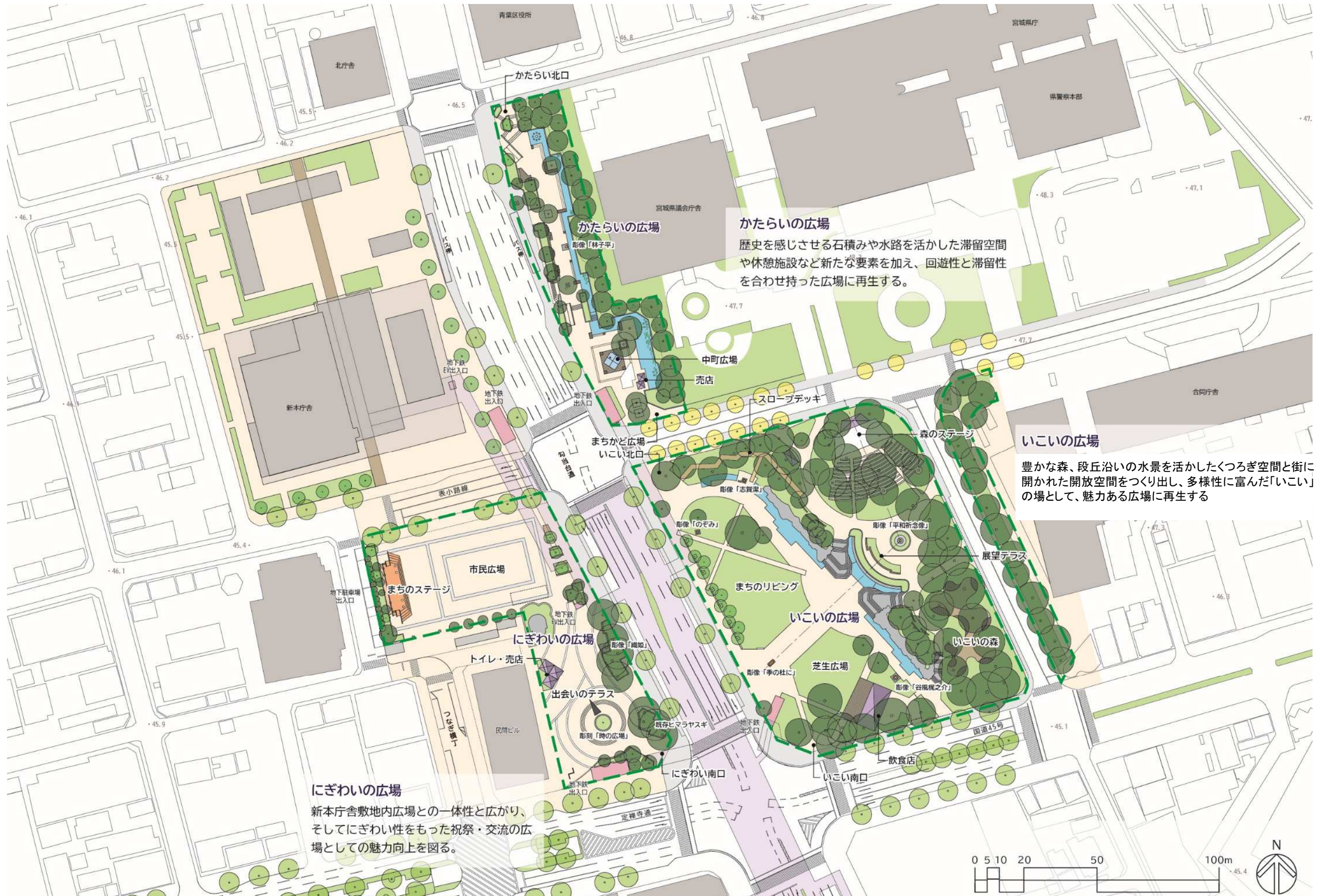


—2. 各広場の整備計画案

各広場の性格付けを踏まえて各広場の再整備の方向性、再整備計画案を定める。

1)各広場の再整備の方向性

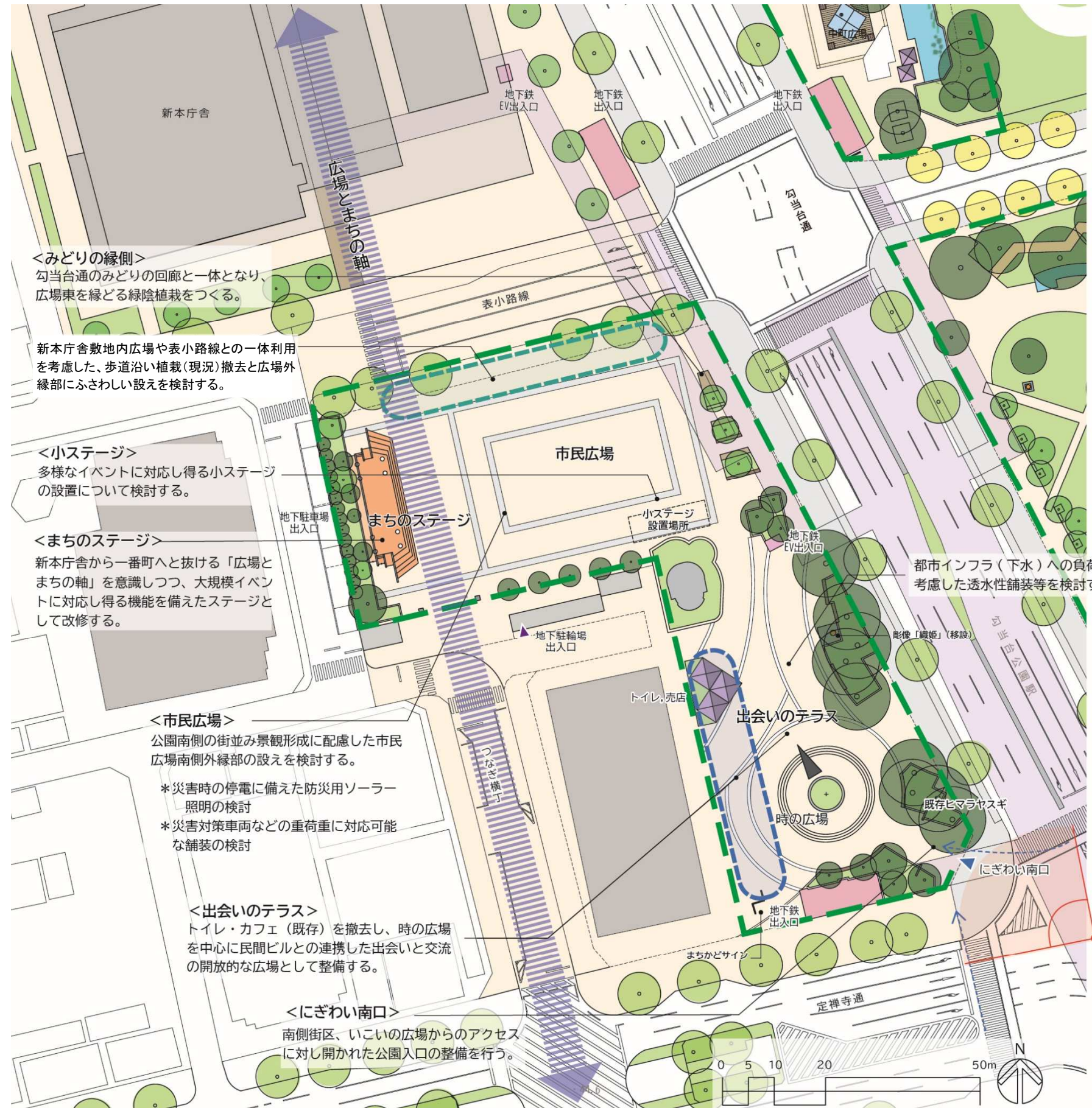
各広場の性格付けや広場の性格付けを実現するための大事なポイントを踏まえて、各広場の再整備の方向性を示す。



2)各広場の整備計画案

①にぎわいの広場

従前からのイベント会場としての役割を継承しつつ、新本庁舎敷地内広場や表小路線、つなぎ横丁、定禅寺通など周辺と一体となったにぎわいの広場として整備を行う。新本庁舎敷地内広場や表小路線と連携した広場としての利活用を視野に入れた大広場空間の形成や新たに設けたにぎわい南口のエンタランス機能により保存樹林や彫刻「時の広場」を活かした出会いと交流の場の形成などを行う。



にぎわい南口から出会いのテラスを望む。(イメージ)

2) 各広場の整備計画案

② いこいの広場

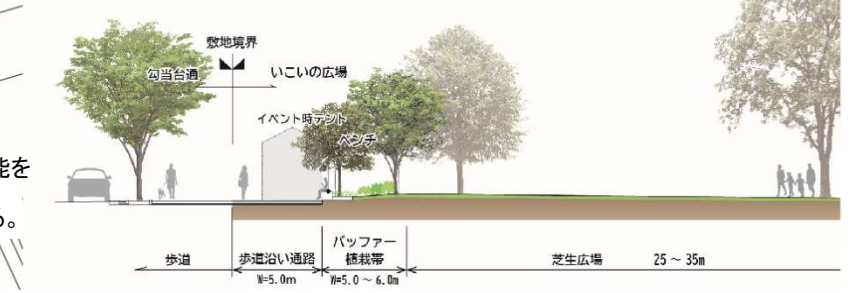
豊かな緑と潤いのある環境の中で、園内の風景を楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごす、くつろぎといこいの広場。杜の都仙台の象徴である都心部の豊かなみどりによる居心地の良い空間の形成を行う。大小さまざまな音楽イベントに対応する野外ステージへの改修。快適な普段使いが可能となる下段部の芝生広場として整備を行う。



芝生広場や飲食店を望む。(イメージ)



勾当台通側のバッファ植栽(A-A'断面図)



2) 各広場の整備計画案

③かたらいの広場

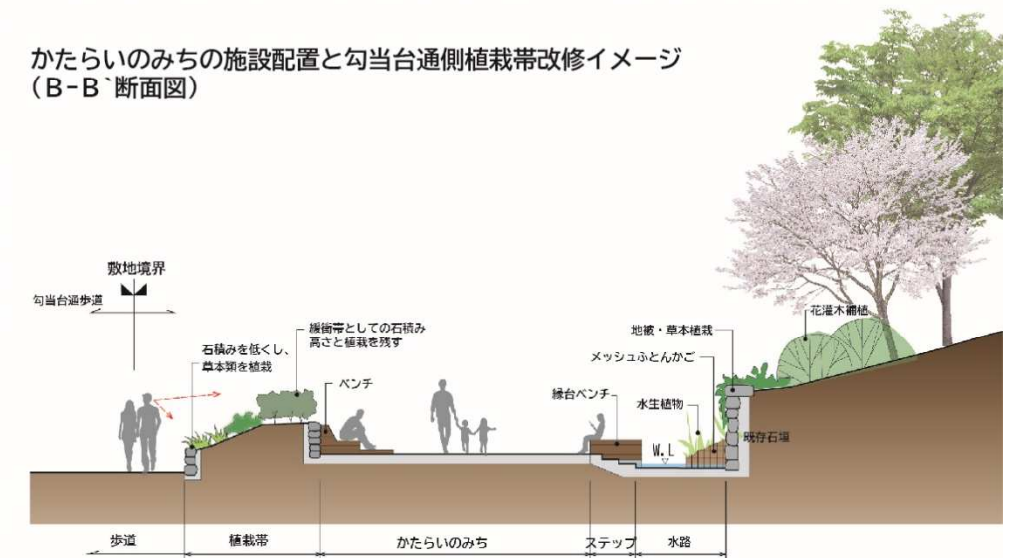
勾当台公園と周辺地区を巡る街歩きの中で一刻の休息の場を提供し、そこに垣間見える仙台の歴史や文化にふれ親しみ、語らう広場として整備する。既存水路を活かした親水性を高めた水路際の整備、既存の古図広場のジオラマを活かした滞留場所の形成、道路歩道からのスムーズな通行を可能とする出入口のバリアフリー化などを行う。



中町広場を望む。(イメージ)



かたらいのみちの施設配置と勾当台通側植栽帯改修イメージ (B-B'断面図)



・パース

鳥瞰 新本庁舎からの眺め（休日の昼間のワンシーン）

- 新本庁舎敷地内広場～表小路線～市民広場～つなぎ横丁～定禅寺通～一番町四丁目商店街が一体的に活用され、そこでは多種多様なイベントが行われ連続したにぎわいが生まれる。そのにぎわいに集う、多様な人々が新たな出会いの場となり、この出会いから生まれる新たな活動がまちの魅力やエリアの価値向上を生み出す。
- 新たに設けられる勾当台公園の顔となるにぎわい南口では、いきいの広場や東二番町通、定禅寺通から人々を受け入れるエントランス機能となる。にぎわい南口からつながる出会いのテラスでは彫刻「時の広場」が待ち合わせスポットとなり、この公園で新たな出会いが生み出される。



※このパースは基本計画中間案段階での整備イメージを表すものであり、今後の検討により変更になる場合があります。

鳥瞰 いこいの広場（休日の昼間のワンシーン）

- 勾当台通からシームレスにつながる下段部の広々とした芝生に覆われた平坦な広場は都心の空間にゆとりと潤いを与え、日常的に多様な人々が自由な場所で飲食や休息といったくつろぎの場や、広場全体が見渡せることで親も安心して見守れる子供たちの遊びの場を提供する。
- 「杜の都仙台」を象徴する都心部の豊かなみどりに囲まれた空間は、人々にいこいの場を提供し、河岸段丘の高低差が生み出す立体的で奥行きを感じさせる水とみどりの景観や公園外周部のオフィスビルの足元を縁取る公園の豊かなみどりの景観を生み出す。
- 上段部の野外ステージは趣のある森の風景と野外ならではの開放感を継承しつつ、大小さまざまなイベントに対応した「森のステージ」としてリニューアルする。



※このパースは基本計画中間案段階での整備イメージを表すものであり、今後の検討により変更になる場合があります。